



日本共産党・前都議会議員
そねはじめレポート
 2012年 2月1日発行 第 30 号

そねはじめ事務所
 114-0032
 北区中十条2-11-6
 Tel:3907-1135
 Fax:3906-3225

北区が「長生きするなら北区が一番」報告書 初の一人ひとりに光あてた高齢対策へ

「長生きするなら北区が一番」
 専門研究会報告書



●東洋大など社会学の研究者を加え

北区は人口の4分の一となる65歳以上の高齢者が暮らしやすい政策に向けて、昨年8月に78000人以上の高齢者全員対象に実態調査アンケートを行い、それを踏まえ東洋大、武蔵野大、家政大など研究者と医師会の7名と区の関係理事9名による専門研究会での検討を経て、年末に報告書を発表しました。

●地域依存から、区が主軸の見守り体制へ

報告書では、これまで民生委員はじめ自治会などに過重な負担をかけてきた高齢者の訪問や安否確認を整理統合し、区が設置した「地域包括支援センター」を中心に、ここに地域住民団体や協力企業、社会福祉協議会などが連携して、孤立しがちな高齢者一人ひとりの見守り体制をつくっていくことが提案されています。また北区医師会が要望している医療と介護の連携を、とくに在宅で介護や療養中の高齢者に普及するため

に、センターに「サポート医」を配置することも提案しています。

同時に、地域包括センター自身も、業務の4割をケアプラン作成が占め、地域の高齢者支援に十分取り組み切れていないことも明らかにしています。

●核となる地域包括センターに区の正規職員を配置

北区はこの報告を受け、今年予定している北区全体の高齢者保健福祉計画の見直しに盛り込むとともに、新年度予算で可能なものから実現させるとしています。地域包括センターには、区の正規職員を配置するなどが計画されています。

●残された住宅・24時間介護・交流の場など

報告書では「認知症」対策、住宅対策、元気高齢者対策なども提言されています。とりわけ住宅問題では、「サー高住」と略称される「サービス付高齢者向け住宅」は、かなりの部分が民間企業による「介護施設に近いグループ」に属し、区の福祉部局・住宅部局が連携して対処しないと質の低下が社会問題になる危険があると指摘しています。「お泊りデイサービス」のように事実上要介護高齢者の“住まい”化しているのに法規制がない施設で利用者が急死したり火災事故が

起きた問題も含め北区の対応は遅れています。

共産党北区議団ではこの報告書を全面的に生かして区が本気で「長生きするなら一番」の北区をめざすよう提案していく決意です。



浮間の生活と健康を守る会新年会にて 撮影そね

☆3・11さよなら原発in飛鳥山へ☆

★東北大地震と福島原発事故からちょうど1年の3月11日の日曜日に、北区民が集まって、原発をなくし、震災からの暮らしと仕事の復興をめざす世論を広げようと、実行委員会が発足し、当日、飛鳥山公園での2時46分の黙とうをはじめ、パレードやイベントが準備されつつあります。

★日本共産党は北区議団を先頭に、「3・11さよなら原発in飛鳥山」と銘うたれたこの集いを大きく成功させるために全面的に協力・参加するつもりです。

★同時に、政党支持や思想信条の違いを超えて、一点で力を合わせようという主旨に賛同される区民の皆さんの、個人・団体を問わず積極的な参加やご意見をお待ちしております。

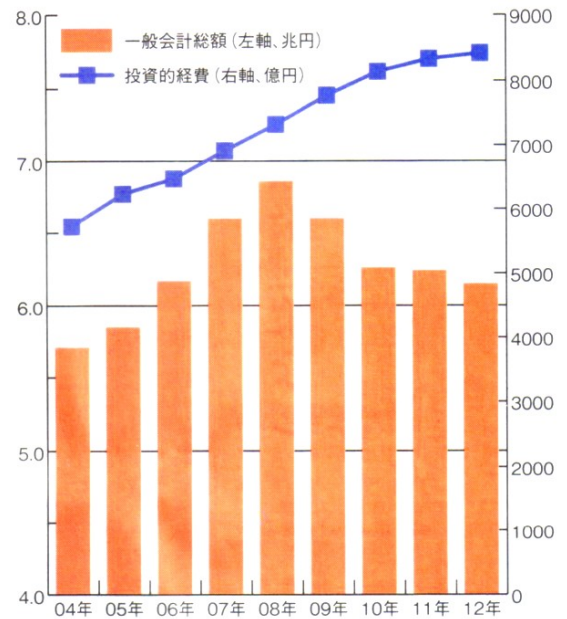
都の新年度予算②「東京五輪」口 実に幹線道路に巨額投入

都が発表した 2012 年度予算で他の自治体に比べてもいちばんの特徴は、不況による財政難を強調する一方で、全国的にとうてい取り組めないような、巨額の公共事業・とりわけ幹線道路に予算の重点を置こうとしていることです。

その理由として、石原都政もさすがに「景気対策」というだけでは通用しないため、オリンピックへの 2 度目の立候補を最大の根拠にしようとしています。

北区で水害の一因ともみられる王子駅周辺での出入口工事を続け、新宿線・品川線と工事が進む首都高速中央環状線は 200 億円、都が次のメダマにする練馬から南への外郭環状道路（外環道）に百億円を計上。さらに築地市場の強制移転に 600 億円、その跡に都心から臨海部に通す環状 2 号線に 200 億円以上をつぎ込む予算です。誘致できる見込みがうすいオリンピックのためとして都民そっちのけのゼネコン奉仕では古臭い金持ちと制の復活とのそしりを免れないでしょう。

（右の図は、1・29 付け東京民報から転載した一般会計予算が落ち込むのに逆比例で拡大する都の公共投資予算のグラフ）



（右の図は、1・29 付け東京民報から転載した一般会計

●宮本徹比例予定候補、池内さおり12区予定候補、そねはじめ前都議が決意表明

2月6日に北区の共産党と後援会の決起集会

2月6日に、赤羽会館の4階大ホールで、総選挙勝利をめざす共産党と後援会の合同決起集会が行われます。集会では、宮本徹比例区予定候補をはじめ、池内さおり12区青年部長、そねはじめ前都議が挨拶と決意表明を行います。消費税増税の一方で、年金切り下げをはじめかつてない国民犠牲をねらう2大政党政治にかわって、本当の政治変革をめざす共産党の政策と北区での取り組みを訴える予定です。

そねはじめ交友録 <その二十四> 大学サークルから児童演劇の現場へ 「風の子」を35年支えた木村智子さん

北海道の児童演劇の最大の雄である「劇団風の子」で、1975年以来研究生から劇団員、そして最ベテランの俳優の一人として北海道の学校演劇で活躍した木村智さんは、私と同じ1970年に藤女子短大から北大の「童話研究会」に入り、ともに人形劇サークルで頑張った児童文化運動の同志です。

学生運動も曲がり角でしたが、児童文化サークルも今後の活動方向が見えなくなっていた時で、新入生は女性2人男性3人しか残らず、必死にもがきながら「どんなに立派な人形劇でも、子どもが目を輝かせなきゃ演じる意味がない」ことを痛感していました。学生運動で忙しい先輩の傍らで、“面白い”劇をやり

りたいと探し出したのが「チョコレート戦争」でした。30回以上上演しても色あせないストーリーの魅力が、人数も増えた後輩たちの人形技術・脚色・美術能力も育てました。その頃始まった子ども劇場運動の地域活動とも結んで札幌市内に無数の公演機会が生まれました。卒業後、北区の化学企業に就職した私と、同期でインク会社のN氏、前回登場の池田さん夫妻などと人形劇サークルも作りましたが、木村さんは飽き足らず、劇団風の子の現場に飛び込みました。

宮沢賢治原作の「ポランの広場」の構成劇を皮切りに役者の道に進み、実家のある北海道の学校演劇で、30年以上活躍されました。このなかで、北海道の農業や漁業の厳しい現状が、子どもたちや学校教育にも大きな影を落とし続けるようすを、毎年たずねる児童劇団の一人として、どんな思いで観つづけてきたのか、お互いの多忙さから、じっくり聞けるチャンスを持っていないのが残念でなりません。

社会人で人形劇をやっていた頃の前
列右がそね、左端が木村さん、後列中
央が池田さん、左下が池田夫人。

